

## バテ・シェバとハギテ

I 列王記 1 章～2 章(特に 1 章 11 節～31 節、2 章 13～25 節まで)

### I 列王 1:11 からの話の背景

ダビデ王は老人となり、ダビデの介護と世話のため、家来たちは美しい娘シュネム人の女アビシャグを提供し、ダビデ王の世話をさせた。

その頃ダビデ王の四男のハギテの子アドニヤがアブシャロムと同じようなことをするようになる。(参考 II サムエル 15-16)

1:5 一方、ハギテの子アドニヤは、「私が王になろう」と言って、野心をいだき、戦車、騎兵、それに、自分の前を走る者五十人を手に入れた。

1:6 ——彼の父は存命中、「あなたはどのようにこんなことをしたのか」と言って、彼のことで心を痛めたことがなかった。そのうえ、彼は非常な美男子で、アブシャロムの次に生まれた子であった——

1:7 彼はツェルヤの子ヨアブと祭司エブヤタルに相談をしたので、彼らはアドニヤを支持するようになった。

1:8 しかし、祭司ツアドクとエホヤダの子ベナヤと預言者ナタン、それにシムイとレイ、および、ダビデの勇士たちは、アドニヤにくみしなかった。1:9 アドニヤは、エン・ロゲルの近くにあるゾヘレテの石のそばで、羊、牛、肥えた家畜をいけにえとしてささげ、王の子らである自分の兄弟たちすべてと、王の家来であるユダのすべての人々とを招いた。

1:10 しかし、預言者ナタンや、ベナヤ、それに勇士たちや、彼の兄弟ソロモンは招かなかった。

王になる野心を抱き、武器兵力を入手、ダビデはアドニヤに対してもきちんとしつけておらず、アドニヤは美男子、ダビデの家臣の中の有力者の将軍ヨアブと祭司エブヤタルを味方につけるようになる。アブシャロムとは年も似たり寄ったりで、良くも悪くも影響されていたのではないか？(状況ややり方があまりにも似ているし、共通点も多い)。そして、王になるべく宴席を設けるが、ソロモンの支持者は招待されなかった。

## I 列王

1:11-14 ソロモンとバテ・シェバを助けるために動き出す預言者ナタン

1:11 それで、ナタンはソロモンの母バテ・シェバにこう言った。「私たちの君ダビデが知らないうちに、ハギテの子アドニヤが王となったということを聞きませんでしたか。

1:12 さあ、今、私があなたに助言をいたしますから、あなたのいのちとあなたの子ソロモンのいのちを助けなさい。

アドニヤ一派の動きについての情報を得た預言者ナタンは、ソロモンの母バテ・シェバを尋ね、ハギテの子アドニヤが王になろうとしていることを伝え、二人のいのちを助

けるためのアドバイスを約束。

ここでバテ・シェバはダビデの妻ではなく、「ソロモンの母」と呼ばれている。「あなたの子ソロモン」という言及もあり、母の役割が色濃く表れている箇所。

1:13 さあ、ダビデ王のもとに行って、『王さま。あなたは、このはしために、必ず、あなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私の王座に着く、と言って誓われたではありませんか。それなのに、なぜ、アドニヤが王となったのですか』と言いなさい。

ダビデ王の前に行った時に何をするか of 具体的指示

1:14 あなたがまだそこで王と話しているうちに、私もあなたのあとから入って行って、あなたのことばの確かなことを保証しましょう。」

預言者ナタンは援護射撃を約束。

バテ・シェバ、ダビデ王に会いに行く

1:15 そこで、バテ・シェバは寝室の王のもとに行った。——王は非常に年老いて、シュネム人の女アビシャグが王に仕えていた——

1:16 バテ・シェバがひざまずいて、王におじぎをすると、王は、「何の用か」と言った。

1:17 彼女は答えた。「わが君。あなたは、あなたの神、【主】にかけて『必ず、あなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私の王座に着く』と、このはしためにお誓いになりました。

バテ・シェバはナタンに知恵をつけてもらい、自分と自分の息子のいのちを救うために、ナタンの言う通り、ダビデ王のところへ行って、ダビデ王がかつてソロモンが後継ぎとなることを約束したことを思い起こさせる。(ここで、バテ・シェバは、「あなたの神、【主】にかけて」と言っているが、バテ・シェバの神、主だったのだろうか？彼女の行為は信仰から出た行為なのだろうか？かなり疑問。あまり読みこまなくていいかも)

1:18 それなのに、今、アドニヤが王となっています。王さま。あなたはそれをご存じないのです。

1:19 彼は、牛や肥えた家畜や羊をたくさん、いけにえとしてささげ、王のお子さま全部と、祭司エブヤタルと、将軍ヨアブを招いたのに、あなたのしもべソロモンは招きませんでした。

アドニヤ派(祭司エブヤタルと将軍ヨアブ)の動きを知らないダビデ王に対し、ナタンに聞いた通り、バテ・シェバはクーデターの動きを伝える。

1:20 王さま。王さまの跡を継いで、だれが王さまの王座に着くかを告げていただきたいと、今や、すべてのイスラエルの目はあなたの上に注がれています。

1:21 そうでないと、王さまがご先祖たちとともに眠りにつかれるとき、私と私の子ソロモンは罪を犯した者とみなされるでしょう。」

ダビデ王死後に自分と息子のソロモンが処罰されるであろうことを伝える。バテ・シェバが王に訴えているが、すこぶる人間的な訴えのように聞こえてしまう。アビガイルの

訴えどうしても比較したくなってしまう。バテ・シェバのことばは、神への信仰に基づく発言には聞こえないのだ。(私見だけど、バテ・シェバはナタンの助言に集中していただけのような気がする。)

#### ナタンの援護射撃スタート

1:22 彼女がまだ王と話しているうちに、預言者ナタンが入って来た。

1:23 家来たちは、「預言者ナタンがまいりました」と言って王に告げた。彼は王の前に出て、地にひれ伏して、王に礼をした。

何食わぬ顔で、アドニヤのクーデターの動きをダビデに報告。

1:24 ナタンは言った。「王さま。あなたは『アドニヤが私の跡を継いで王となる。彼が私の王座に着く』と仰せられましたか。

1:25 実は、きょう、彼は下って行って、牛と肥えた家畜と羊とをたくさん、いけにえとしてささげ、王のお子さま全部と、将軍たちと、祭司エブヤタルとを招きました。そして、彼らは、彼の前で飲み食いし、『アドニヤ王。ばんざい』と叫びました。

1:26 しかし、あなたのしもべのこの私や祭司ツアドクやエホヤダの子ベナヤや、それに、あなたのしもべソロモンは招きませんでした。

1:27 このことは、王さまから出たことなのですか。あなたは、だれが王の跡を継いで、王さまの王座に着くかを、このしもべに告げておられませんのに。」

ダビデに対し、後継者をはっきりさせるように求める。

#### ナタンの言葉に対するダビデの反応

バテ・シェバを自分の前に呼び、ソロモンを後継ぎとすると約束したことを実行することを確約。

1:28 ダビデ王は答えて言った。「バテ・シェバをここに呼びなさい。」彼女が王の前に来て、王の前に立つと、

1:29 王は誓って言った。「私のいのちをあらゆる苦難から救い出してくださった【主】は生きておられる。

「私のいのちをあらゆる苦難から救い出してくださった【主】」ダビデの神観が表れている。ゴリアテの時もそうであったが、サウルに追われる生活をしてこの方、息子アブシヤロムの問題等々、実に幾度となく神でなければ、だれがダビデのいのちをたすけたのか？という事件があった。

1:30 私がイスラエルの神、【主】にかけて、『必ず、あなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私に代わって王座に着く』と言ってあなたに誓ったとおり、きょう、必ずそのとおりにしよう。」

「私がイスラエルの神、【主】にかけて」神の真実に対し、ダビデは自分の約束を実行する決意表明をしている。

ダビデの言葉に対するバテ・シェバの反応

1:31 バテ・シェバは地にひれ伏して、王に礼をし、そして言った。「わが君、ダビデ王さま。いつまでも生きておられますように。」

う～ん。かなりありきたりの反応。自分の願いをかなえてもらったのだし、当然かな？ということしか言っていない。ダビデが神に対する信仰をはっきり言い表しているのとは対照的なバテ・シェバのあっさりした反応。バテ・シェバは信仰者だったのだろうか？ともかくも、母として子のいのち、そして自分のいのちを救う仕事はしっかりしていることが分かる。

\* バテ・シェバはどのような人だったのだろうか？母としてはどのような人だったのだろうか？妻としてはどのような妻だったのだろうか？

I 列王

2:13に至る背景

バテ・シェバとの約束を実行に移すべく、ソロモン側についてくれる祭司ツアドクと預言者ナタンにソロモンを王に任命する指示を具体的に与えた。アドニヤが謀反を起こしたのは、エン・ロゲル(ダビデの町よりもっと南に下った所)だが、ダビデはソロモンの王位任命の場所をギホン(ダビデの町の出た所、ヒゼキヤのトンネルの入口)に指定している。このため、アドニヤのクーデターは頓挫。ソロモンは命乞いをするアドニヤの願いについては、神にゆだねる発言をし、その時点ではアドニヤのいのちはつながった。

後にダビデのソロモンに対する遺言の中で、アドニヤのクーデターに加担した將軍ヨアブのこれまでの不義の処罰をソロモンに託して、長寿を全うした。そして、ソロモンが王座につき、ソロモンの王位が確立。

そんなあるとき…の話

バテ・シェバのところにハギテの子アドニヤが訪問

2:13 あるとき、ハギテの子アドニヤがソロモンの母バテ・シェバのところにやって来た。彼女は、「平和なことで来たのですか」と尋ねた。彼は、「平和なことです」と答えて、

2:14 さらに言った。「あなたにお話ししたいことがあるのですが。」すると彼女は言った。「話してごらんさい。」

アドニヤはなぜバテ・シェバの所に嘆願に来たのだろうか？バテ・シェバなら自分の計略にうまいこと引っかかってくれるという目算があったからに違いない。ということは、平素からバテ・シェバは脇の甘いことをしていたのではないか？それとも、アドニヤは女性の騙し方が上手だったのだろうか？母親であるハギテの教育の仕方に興味がわく。

さて、バテ・シェバについて…自分と自分の息子ソロモンを殺しそうになった相手

が来ているのに、バテ・シェバはその訪問をあっさり受け入れて、「『平和なことで来たのですか』と尋ねた」と呑気な対応。しかも、アドニヤが平和なことだと答えて、さらに「あなたにお話ししたいことがあるのですが。」と言ってくると、「話してごらんなさい。」とまるで緊張感がない。おつむ大丈夫ですか？という反応だ。

2:15 彼は言った。「ご存じのように、王位は私のものであるはずですし、すべてのイスラエルは私が王となるのを期待していました。それなのに、王位は転じて、私の弟のものとなりました。【主】によって彼のものとなったからです。

「ご存じのように、王位は私のものであるはずですし、すべてのイスラエルは私が王となるのを期待していました。それなのに、王位は転じて、私の弟のものとなりました」ことば上は尤もな話をしているように聞こえるが、しかしクーデター失敗の際に死刑になっても仕方なかったのに、命拾いをしたのにこの発言はない気がする。まるきり図々しい発言ではないか。「すべてのイスラエルは私が王となるのを期待していました。」という部分も、正しくない。「【主】によって彼のものとなったからです。」と言っているが、本当に信仰心からこのような発言になったのだろうか？（**全然、信仰心ではない、主の御名をみだりにとなえている。**）

2:16 今、あなたに一つのお願いがあります。断らないでください。」彼女は彼に言った。「話してごらんなさい。」

「断らないでください。」と、図々しいお願いをするアドニヤもアドニヤだが、自分と自分の息子に危害を与えようとした人物が、何を願うのか分からないのに、「話してごらんなさい。」と言っているバテ・シェバの気持ちが理解できない。

2:17 彼は言った。「どうかソロモン王に頼んでください。あなたからなら断らないでしようから。シュネム人の女アビシャグを私に与えて私の妻にしてください。」

いくら肉体関係にはなかったとはいえ、ダビデ王のそばめ同然だった女性を妻に欲しいとは…王位を狙っているとか思えないのだが。

2:18 そこで、バテ・シェバは、「よろしい。私から王にあなたのことを話してあげましょう」と言った。

そのアドニヤのお願いに対して、バテ・シェバが自分の息子に対する謀反の企てだと気づかずに、話してあげようって言うのは、いったいどういう神経なんだろう？

アドニヤのためにソロモン王に会いに行ったバテ・シェバ

2:19 バテ・シェバは、アドニヤのことを話すために、ソロモン王のところに行った。王は立ち上がって彼女を迎え、彼女におじぎをして、自分の王座に戻った。王の母のためにほかの王座を設けさせたので、彼女は彼の右にすわった。

アドニヤのためにわざわざ病床にあるダビデのところまで、お願いに行きあげ筋合いが、バテ・シェバにあったのだろうか？ すごく大きな疑問。知恵がない気がする。

(おそらく、バテ・シェバは言われたことを、素直に聞いてしまう、「鳩のように優しいかもしれないが、蛇のような聡さが無い。識別力がない人、受動的な人。」)

一方、ソロモンの行動から、昔は母親に対してそのようにしたのであろうが、自分の母親のことをとても尊敬していたことが分かる。

2:20 そこで、彼女は言った。「あなたに一つの小さなお願いがあります。断らないでください。」王は彼女に言った。「母上。その願い事を聞かせてください。お断りしないでしょから。」

なぜアドニヤのお願いをその通りに、アドニヤが使った言葉通りにバテ・シェバはお願いしなければならなかったのだろうか？ソロモンは母親のために、何でも聞いてあげたいという気持ちで、さすがに誓いをたてるほどではないが、「お断りしないでしょから。」と積極的に願い事をかなえてあげたいという態度をとっている。

2:21 彼女は言った。「シュネム人の女アビシャグをあなたの兄のアドニヤに妻として与えてやってください。」

ソロモンの答え

2:22 ソロモン王は母に答えて言った。「なぜ、あなたはアドニヤのためにシュネム人の女アビシャグを求めめるのですか。彼は私の兄ですから、彼のために、王位を求めたほうがよいではありませんか。彼のためにも祭司エブヤタルやツェルヤの子ヨアブのためにも。」

ソロモンはアドニヤの意図を知っていた。

2:23 ソロモン王は【主】にかけて誓って言った。「アドニヤがこういうことを言って自分のいのちを失わなかったら、神がこの私を幾重にも罰せられるように。」

アドニヤの謀反に対し、ソロモンは断固たる態度をとる。

2:24 私の父ダビデの王座に着かせて、私を堅く立て、お約束どおりに、王朝を建ててくださった【主】は生きておられる。アドニヤは、きょう、殺されなければなりません。」

2:25 こうして、ソロモン王は、エホヤダの子ベナヤを遣わしてアドニヤを打ち取らせたので、彼は死んだ。

この答えを聞いて、バテ・シェバはどのように思ったのだろうか？自分のしたことがどのような意味を持っていたのか、気づいたのだろうか？

ソロモンは、処罰を実行。

\* 先と同じ質問になるが、この聖書箇所からバテ・シェバについてどのようなことが分かるだろうか？バテ・シェバはどのような人だったのだろうか？母としてはどのような人だったのだろうか？妻としてはどのような妻だったのだろうか？

ハギテ

Ⅱ サムエル3:4

Ⅰ 歴代3:2-5

## Ⅱ サム

3:4 四男はハギテの子アドニヤ。五男はアビタルの子シェファテヤ。

ハギテについて、四男のアドニヤを生んだこと以外にほとんど聖書は言及していない。

### I 歴代3:2-5

3:2 三男はゲシュルの王タルマイの娘マアカの子アブシャロム。四男はハギテの子アドニヤ。

3:3 五男はアビタルによるシェファテヤ。六男は彼の妻エグラによるイテレアム。

3:4 六人の子がヘブロンで彼に生まれた。ダビデはそこで七年六か月治め、エルサレムで三十三年治めた。

アドニヤはダビデがヘブロンで王であるときに生まれた子。当然エルサレムに行く前にハギテはダビデの妻になっていた。

3:5 エルサレムで彼に生まれた者は次のとおりである。シムア、ショバブ、ナタン、ソロモン。この四人はアミエルの娘バテ・シュアによる子である。

ダビデがエルサレムで王になった後に生まれた息子 4 人は全てバテ・シェバの子。ダビデは、バテ・シェバの一件で、さすがに自分の女性関係について、悔い改めたのかもしれない。アビシャグにも知ろうとしなかったと書いてあるし。(参考 I 列王1:4)

### \* ハギテはどのような人だったのだろうか？妻として母として。

聖書がハギテについて四男のアドニヤを生んだこと以外言及していないということは、言及する程のことを何もしていないということになる。神様の観点から言及に値することがあまりなかった女性。ハギテがダビデの何番目の妻であったのかはよく分からないが、ヘブロンで既に妻であったのだから、比較的早い段階の妻であったはず。子育てには、あまり成功しなかった人のようだ。息子を信仰者にすることができなかったし、本人が信仰者であったかどうかあやしい。